



Title	大阪の復権を考える
Author(s)	辻野, 直三郎
Citation	makoto. 1980, 32, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86094
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪の復権を考える

財団法人大阪防疫協会

理事長 辻野直三郎

(一) 適塾と近代日本への礎

緒方洪庵によって創立された蘭学塾(私塾)適々斎塾(適塾)は、その主眼を蘭、医学の研修としながら、オランダ語を通じて西洋文化の修得にあったことは、適塾に学んだ多くの逸材の続出によっても明らかであるばかりでなく、明治維新の興隆に寄与貢献したことは大であり、歴史の証明するところである。

昭和五十一年十一月文化庁が工費一億二千万円(解体、修復工事費)にて着手五十五年五月十九日完工式を行った。

緒方洪庵略歴

時代江戸末期

(自一八一〇(文化七)至一八六三(文久三))

備中足守の人(現岡山市)

名、章字公裁、洪庵と号す江戸末期の蘭学者

1. 十七才の時医学を志し大坂に出て中天遊の門に入る。

2. 二十二才の時江戸に行き坪井信道、宇田川玄真らにつき蘭学を修む。

3. 二十九才の時(一八三八)大坂に帰り医業に従事、傍ら蘭学塾「適塾」を開く。

八重女と結婚し子宝に恵まれ、誉れ高い賢婦人の内助の功をうけた。

4. 一八六二(文久二)江戸幕府の奥医師兼西洋医学所頭取を命ぜられた。

翌一八六三(文久三)没す。

維新黎明期に活躍、適塾に学んだ主な人材

村田蔵六(後の大村益次郎

昭和五十一年十一月文化庁が工費一億二千万円(解体、修復工事費)にて着手五十五年五月十九日完工式を行った。

緒方洪庵略歴

時代江戸末期

(自一八一〇(文化七)至一八六三(文久三))

備中足守の人(現岡山市)

名、章字公裁、洪庵と号す江戸末期の蘭学者

1. 十七才の時医学を志し大坂に出て中天遊の門に入る。

2. 二十二才の時江戸に行き坪井信道、宇田川玄真らにつき蘭学を修む。

3. 二十九才の時(一八三八)大坂に帰り医業に従事、傍ら蘭学塾「適塾」を開く。

八重女と結婚し子宝に恵まれ、誉れ高い賢婦人の内助の功をうけた。

4. 一八六二(文久二)江戸幕府の奥医師兼西洋医学所頭取を命ぜられた。

(二) 兵制の創始者

佐野常民

日本赤十字社初代社長

大島圭介

函館五稜郭の変に投じたが後ゆるされて外交官として活躍

橋本左内

勤皇志士として活躍

長与専斎

内務省初代衛生局長、衛生行政の確立者

緒方洪庵の主たる著書

「疫学通論」

現代の病理学総論

「虎狼病治準」

コレラ対策書

「扶子経験遺訓」三〇巻

ドイツ医ベルリン大学教授フーフェラントの著書の訳

「扶氏医戒の略」

現代に通ずる医業の本体を記述したのみならず時代を超越した万人への戒とすべき高邁な思想の発露によるものである。

二二ヶ条に分つ、その一

一人の為に生活して己のために生活せざるを医業の本体とす安逸を思いづ名利を顧みず唯おのれをすてて人を救はんことを希ふ次て人の生命を保全し人の疾病を復治し人の志を寛解するの外他事あることのあらす

以下十一ヶ条省略

蘭学発展の経過

蘭学草創の経過を大槻玄沢(一七五七、宝暦七)一八二七、文政一〇)江戸時代中期の蘭学者が次のように語っている。

「白石新井先生に草創され昆陽青木先生に中興し蘭化前野先生に休明し鴻斎杉田先生(註四)に隆盛す」と明言している。その大槓は杉田、前野に学びさらに長崎に遊んで本吉雄らの通詞(通訳)に従学して「蘭学梯」をあらわしてオランダ語の文法的学習の道を開き「解体新書」を修訂して「重訂解体新書」を刊行、また家塾「芝蘭堂」を開き多くの門人を養成し橋本宗吉、宇田川玄真、稲村三泊、山村昌永、小石元俊ら全国に及び蘭学的主流をなすに至った。

「蘭学」の「呼称」の始め前野良沢、杉田玄白、中川淳庵、桂川甫周らの手による有名な「解体新書」(註三)が一七七四(安永三)刊行された。これら西洋解剖学の知識が学問的であ

りこの記述の過程において自分の成果を「蘭学」と呼んだ。これが「蘭学」名称の始まりであると伝承されている。

蘭学の素地

江戸時代の一六一五(元和元)頃からオランダ語を通じて行なわれた西洋諸科学、特に医学はその中心をなしたもので西洋事情に関する研究、知識を吸収した。その内容は医学、本草学、天文曆学、物理化学、地理学などあらゆる部門にわたっていた。十七世紀初めには、オランダとの交渉が始まって以来「長崎出島」(註二)を拠点とするオランダ商館の門戸を通じて、オランダ人医師によって文化、學術特に医学が急速にその道を開かれるに至った。徳川吉宗の時代にはいって、幕府権力の擁護策としてオランダ商人を通じて西洋の知識を得ようとし、自然科学の奨励、施設の特徴であった殖産興業などを重視し蘭学の発展に影響を及ぼした。

官、私学(塾)の別と適塾の特色

官学はもともと幕府又は藩の庇護下において設立、経営された学問教育機関であるのに対し、私学(塾)は一部のすぐれた指導者によって自ら信ずる学派或いは流派を自己の努力、経営又は町人らの援助のもとに行なった学問、教育の場所であると解す

緒方洪庵の設立した「適塾」は当時浪速の豪商、天王寺屋五兵衛（註一）の財政的援助を受けたものである。その学習方法の特色は、塾生達の自己批判即ちその日その日の進歩の状況に応じて席次の入替、按揭が厳に行なわれるという徹底した教育が行なわれ、塾生達の向学心をかきたてたものである。

一面外国に対して優秀なる民族性を誇示するは勿論、「日本国性を侵すべからず」との畏怖を与えたシンボルでもあった。しかもその街造りの中心は、諸藩より物資の集散の地としての利便に供するため木津川、平野川、

して襲名し両替商を家業とした。初代天王寺屋五兵衛は慶長年間（一五九六—一六一五）慶長元（元和元）に金銭の売買を始め、形発行を案出したといわれる。大阪町奉行石丸定次のとき十人兩替が組織されるとその有力メンバーの一人となる。一七六一（宝暦一）には幕府御用金千兩の賦課をはたし、買米（仲買商人）幕府の公金取扱等その他について指定をうけ、浪速町八として活躍を続したが、明治維新（一八六八）以後の諸制度変更による打撃にて遂に倒産するに至つてその系統は滅亡した。

吾等後続の浪速人の誇りでもあり、有形無形の資産でもあり、長くこの精神は保持されなければならぬと思う。

暴言多謝乞ふご叱正を。

資料 適塾記念会発行「適塾」世界百科大事典

註一

長崎では開港以来主としてポルトガル船が入港貿易し、オランダ船貿易は一六〇九（慶長一四）以来平戸の商館で行われていた。

良沢らとオランダ語の解剖書（ドイツ人クルムスの解剖図譜のオランダ訳書）の翻訳にとりかかり完成、一七七四（安永三）

(二) 大阪城築城四〇〇年
一九八三年昭和五十八年は日本
民族にとって、また私達大阪に

の整備が行なわれた。これは現代語の「都市計画」の先鞭とでも称すべき画期的な事業であった

天王寺屋五兵衛
緒方洪庵の事業を援助した江戸
時代の豪商であつて代々屋号と

のち長崎の出島に移転させられ
(一六四一寛永一八) 同地で貿
易を行い、アジア各地の商館中

「解体新書」を刊行、これは日本最初の西洋医学書の翻訳書であるとされている。

緒方洪庵略曆

一八一〇年文化七年四月四日 備中、足守 現岡山県
 一八二六年文政九年七月 大阪、中天遊の門に入る（一七才）
 一八三一年天保二年二月 蘭学者坪井信道の門に入る（二二才）
 一八三六年天保七年二月 長崎へ蘭学修業のため赴く
 一八三八年天保九年一月 大坂瓦町に蘭学塾適塾を開く（二九才）
 〃 九年七月 摂津国名塩（兵庫県）の濱川百記の女塩八重と結婚す
 一八四三年天保一四年一二月十五日 過書町の町家へ

一八四九年嘉永二年 古手町に種痘所をつくり牛の痘苗による種痘事業を開始した。

一八六〇年万延元年 除痘館を現在の緒方病院の敷地に移転各地方に分痘所を設け天然痘の蔓延防止に功績をおげた。

一八六二年文久二年 八月十五日 江戸幕府奥医師兼西洋医学文頭取を命ぜられる。

一八六三年文久三年 六月一日 逝せられた。(享年五四才)

遺体は駒込高林寺に葬る。遺髪は大坂満亀海寺に納める。

その他参考

一九〇一年明治三十四年 洪庵先生の偉業をしのぶ門弟らによつて「洪庵文庫」が設立された。
一九四〇年昭和十五年七月 大阪府の史跡に指定さる。
一九四一年昭和十六年二月一日 国の史跡に指定さる。
一九五二年昭和二十七年一月一日 適塾記念会が創立さる。
一九六四年昭和三十九年五月二六日 建物が国の重要文化財に指定さる。
一九七六年（一九八〇年昭和五一年）昭和五五年文部省が行なわれ昭復工事（工費一億二〇〇万円）が行なわれ昭和五五年五月一日完工式が挙行された。

護記